日本天文学会 早川幸男基金による
渡航報告書

（参加者の一人と Rutgers 大学にて.）

8月8日から12日まで，米国ニュージャージー州の Rutgers 大学において，国際研究会“Galaxy Dynamics”が開催されました．参加者はおよそ200名，日本からも10名ほどの参加者がありました．この研究会はその名のとおり，銀河及び銀河団の力学に関する研究会で，主なテーマは銀河中心と超巨大ブラックホール，銀河の構造，ダークマター，銀河間相互作用，楕円銀河の力学，銀河進化など多岐に渡りました．

Rutgers 大学までは，ニューアーク空港から車で40分くらいかかったでしょうか．なかなか歴史のある大学ということですが，非常に広大な敷地の中に建物が点在していました．その一角で研究会が催されたわけですが，大学の広さのため，車なしでは大学から外へは出られません．また，夏休みと週末が重なって，キャンパスは閑散としており，日に3度の食事（これがまたお世辞にもおいしいとは言えない物でしたが）以外は研究会に没頭するしかないという，絶好の環境でした．

私は幸いにも口頭発表に採択され，超巨大ブラックホールを持つ銀河中心核恒星系の安定性に関する研究について発表を行いました．銀河中心核と銀河中心のブラックホールは，この研究会でのメイントピックの一つであり，かなりの時間を割いていました．また，渡航前にオーガナイザーの一人と電子メイルで私の研究内容について若干のやり取りをしていたので，比較的議論がしやすかったと思います．そのおかげで，私の英語の非力さにも関わらず，関心を示してくれた研究者も多く，いろいろな議論ができました．また，この分野に関しては，HST や active optics などによる，ここ5年ほどの観測の進展もあり，理論と観測の両面から，非常に面白い話が続きました．今後の研究の方針を考えるよい機会になったと思います．

コーヒーブレイクの時間などには，あちこちで議論が交わされるわけですが，その輪に入るのはなかなか至難の業です．それでもあらかじめ話をしたい人を何人か捕まえて，議論をすることができました．最後の夜は Conference Banquet が催され，居合わせた若手研究者と，研究に限らずさまざまな話題に花を咲かせ，楽しい時間を過ごすことができました．個人的には，非常に得るところの大きい研究会だったと思います．

一方で，“Galaxy Dynamics”というタイトルがあまりに多くの主題を包含していたため，主催者の予想を超えて参加者が多かったらしく，いろいろと不都合もあったようです．中には主催者の独断で集録に載せられないという通知を受けた方もいたようです．また，銀河形成に関する話題が少なかったり，全体に理論に偏重していた印象を受けました．

最後に，今回の研究会参加に際しては天文学会早川基金から多くの援助を頂きました．たいへんありがとうございました．

多賀正敏（国立天文台）